

紀尾井だより

1/2

January / February
2025

Vol.169

紀尾井 明日への扉 2025年度シーズンのご紹介
邦楽 明日への扉 第7回・第8回

連載

徳丸吉彦 山口智子 対談
邦楽をたのしもう! (第4回)

[クラシック音楽のテーマに基づく3話]
ピアノデュオをめぐる3つの話





第46回

佐々木 つくし
ヴァイオリン

第45回

山下 裕賀
メゾソプラノ

第44回

瀬 千恵美
クラリネット

第43回

河野 星
ファゴット

 三菱地所 presents

紀尾井 明日への扉

2025

これからが期待される才能を見出し、伸びつつある才能やキャリアを後押しすることを目指してスタートした「紀尾井 明日への扉」。12年目となる2025年もまばゆい未来への道を歩み始めた若きアーティスト4名が登場します。

スタートを飾るのは4月第43回ファゴットの河野星。本シリーズでこの楽器をフィーチャーするのは今回が初となります。学生時代から彼女の技術の確かさ、安定感は評判で、また高校2年生だった2018年に受けたK木管楽器コンクールで、並いる大学生を押さえて第1位に輝きました。また2018年に新たに立ち上げられた日本ファゴットコンクールの第2回(2022年)でも第2位、さらに2023年第21回東京音楽コンクールではモーツァルトのコンチェルトを吹いて、ここでも見事第2位に輝きました。演奏活動では、2023年6月の藝大モーニング・コンサートでヴェーバーのコンチェルトを採り上げ、暖かい音色をベースに、速いパッセージもむらなくこなし、楽々と余裕を感じさせていた姿が印象的でした。実は2024年度に出演予定だったので、東京フィルハーモニー交響楽団の首席奏者に合格し、オーケストラの試用期間に専念するため辞退。その試用期間を経て正式メンバーとなり、満を持しての出演となります。

今回がリサイタル・デビューとなる彼女のプログラムは、「高校生から大学生の間に演奏した思い出深い曲たちと、ずっと演奏したかった曲を集めた」もの。バロックから近代まで、さまざまな国の作曲家を取り上げ、ファゴットという楽器の歴史の長さ、表現媒体としての可能性の広さを聴かせてくれます。

続いて5月第44回はクラリネットの瀬千恵美。2021年の小澤征爾音楽塾オーケストラのメンバーとして、また21年と23

年の東京音楽コンクール出場などでその名が知られてきた存在です。インスピレーションに富み、強い個性と自在な音色を持った奏者で、現在はザルツブルクのモーツァルテウム大学に籍を置きつつ、ベルリン・フィルのカラヤン・アカデミーで研鑽を積んでいます。1972年に創設された同アカデミーではカール・ライスターの時代にも日本人が学んでいます。彼女が現システムで課せられるオーディションに合格してアカデミーに入った初の日本人クラリネット奏者となりました。

彼女も本公演がリサイタル・デビューです。プログラムは、このザルツブルク・ベルリンの留学生生活で学んだ成果の中間報告として、バッハからヴィトマンまでおよそ270年の音楽の歴史を縦断します。

19世紀前半のクラリネットの歴史的な名手のために書かれたヴェーバー作品や自身クラリネット奏者でもあるヴィトマンのクラリネット用オリジナル作品をはじめ、バッハやモーツァルトのヴァイオリン作品の編曲版まで幅広く取り上げます。シューマンの《3つのロマンス》は4月の第43回と共通しているの、同じ木管楽器でどのように味わいが変わるかを聴き比べるのも興味深いでしょう。

また日本ではフレンチ管が多いなか、「温もりのあるマツトな音」「聴き手の心に静かに入り込む力がある」と瀬が好むドイツ管での演奏というのも魅力です。

6月第45回はメゾソプラノの山下裕賀ひろか。大学時代から外部のオペラに招かれるなどすでに注目を集める逸材です。2023年には第92回日本音楽コンクールで第1

位、さらに第9回静岡国際オペラコンクールでも三浦環特別賞に輝きました。

デビューしてから人気は一層上がり、オペラの現場はもとより、コンサートでも数々のオーケストラから招かれ、存在感を増しています。なかでも2024年4月の《ラ・チエネントラ》では濃やかな歌唱表現と高度なテクニクで聴衆を魅了しました。発表されているいくつかのオーケストラの次シーズン・ラインナップを眺めてもその人気ぶりは確かです。2026年春までのスケジュールが埋まっているほど。まさに「今もつとも注目すべきメゾ」と言えるでしょう。

今回のプログラムは前半をロッシーニ、ブラームス、ドヴォルジャーク、ドニゼッティらがロマ(ジプシー)をモチーフに書いた作品ばかりを集め、後半はヴェネツィアをテーマにするという知的でユニークなセットです。ちなみに彼女は、紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)の2025年9月第144回定期演奏会《夏の夜の夢》にも出演予定です。こちらも併せてご期待ください。

休館前最後の月となる7月第46回は、ドイツに留学中のヴァイオリンの佐々木つくしが出演します。KCOのファンのなかには第132、133回定期にエキストラとして出演していたことをご記憶の方もいらっしゃるでしょう。

2018年の第87回日本音楽コンクールや2020年の第18回東京音楽コンクールとともに第2位を受賞するなど、テクニクの高さは大学生時代から評判でしたが、23年にリユーベックに留学してか

ら一気に音楽のスケールが増したように感じます。24年には第75回プラハの春国際コンクールで見事第1位を受賞。これは彼女の師の一人である玉井菜採に次ぐ、同コンクール史上2人目の日本人受賞という快挙でした。さらに同年10月にはカラヤン・アカデミーにも合格。その勢いをそのままに、この「明日への扉」でリサイタル・デビューします。

プログラムは、かつて玉井の演奏を聴いてずっと憧れていたというシューベルトの《幻想曲》を中心に、ファンタジー的なものがりとして武満の《妖精の距離》や、激的な表現も用いられるプーランクなども組み入れました。「自分の声では出しきれないあらゆる感情をヴァイオリンを通して表現したい」と意気込みを語る佐々木を会場で見届けていただければと思います。

2025年度の4公演は、紀尾井ホール長期休館前のラスト4か月間に毎月開催します。俊英4名の演奏を、4公演セットでぜひお聴き逃しのなきよう。そして、これから「明日への扉」を開き、世界へと羽ばたく第一歩を踏み出してゆく彼女たちに、皆さんからの温かい拍手と喝采をお贈りください。

文/松本學(制作プロデューサー)

4公演セット券
2025年1月10日(金)
正午発売
第43回から第46回まで
全4公演を同一座席で
ご鑑賞いただくセット券です。

4公演セット券
S席 10,000円
A席 2,000円
紀尾井ホール
ウェブチケットのみでお取扱い

第46回
佐々木 つくし
(ヴァイオリン)

7/24
木
19:00

[共演]
秋元孝介(ピアノ)
[曲目]
モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ第40番
変口長調
武満徹 : 妖精の距離
シューベルト: 幻想曲ハ長調 ほか

第45回
山下 裕賀
(メゾソプラノ)

6/26
木
19:00

[共演]
多田聡子(ピアノ)
[曲目]
ブラームス : 《ジプシーの歌》より
ドヴォルジャーク: 《ジプシーの歌》
ロッシーニ : ヴェネツィアの競艇 ほか

第44回
瀬 千恵美
(クラリネット)

5/16
金
19:00

[共演]
小澤佳永(ピアノ)
[曲目]
ヴィトマン : 幻想曲
シューマン : 3つのロマンス
ヴェーバー : 協奏的 second 重奏曲 ほか

第43回
河野 星
(ファゴット)

4/4
金
19:00

[共演]
大堀晴津子(ピアノ)
[曲目]
ヴィヴァルディ: ファゴット協奏曲イ短調
シューマン : 3つのロマンス
ヴェーバー : アンダンテと
ハンガリー風ロンド ほか

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

協賛: 三菱地所株式会社



邦楽
明日への

2025

第7回
杵屋長寿郎
柏要二郎
第8回
日吉章吾

次世代を担う邦楽演奏家を支援するプロジェクト「邦楽明日への扉」。2025年度は、4月に歌舞伎専従の長唄唄方・杵屋長寿郎と三味線方・柏要二郎が、6月に地歌箏曲家で平家や胡弓にも取り組む日吉章吾が登場します。

「長唄」は、日本の総合舞台芸術「歌舞伎」の音楽として発達してきた三味線音楽、「地歌」は、三味線音楽のなかでももっとも古くに成立し、江戸時代以降は箏曲とともに盲人音楽家たちが専業としてきた音楽です。

それぞれの聴きどころなどを伺いました。

歌舞伎音楽「長唄」の魅力

歌舞伎音楽には、舞台上で演奏する「出囃子」と、舞台下手の黒御簾で演奏する「黒御簾音楽（下座音楽）」があります。舞踊劇の伴奏音楽だったり、芝居の効果音だったりとその役目はさまざまです。

役者によって好みが異なる間やノリ。役者と作りだす舞台の極意は、「見計らいですね」とふたり口を揃えます。コンダクターの役目をつとめる立三味線と唄方をまとめリードする立唄。立を初めて務めるのは40代といわれるなか、ふたりは30代で初経験。

1カ月公演（23日間くらい）を毎月年間を通して務めるための体調管理も重要なこと。身体が楽器の唄方・杵屋長寿郎の睡眠時間は7時間以上。柏要二郎はバランスのとれた食事への意識と毎晩のストレッチが欠かせないと言います。



柏要二郎



杵屋長寿郎

そんな二人が今回演奏予定の《蜘蛛拍子舞》は、源頼光とその家臣の四天王たちが、白拍子妻菊に化けた女郎蜘蛛を退治する物語。登場する個性的なキャラクターを、唄方がそれぞれうたいわけます。

「歌舞伎専従の演奏家として、その色が出せるように工夫して演奏していきたいと考えています。音を聴いているだけで歌舞伎の絵が浮かんできましたと言っていただけのようにしたいと思います」

今公演では演奏だけでなくMCも楽しみのひとつ。「初めての方でも親しみやすい演奏会にしたいと思います」。歌舞伎の舞台とはひと味違った演奏家の素顔も垣間見られそうです。

平家、三味線、胡弓、箏の持ち味

かつて盲目の琵琶法師が「平家物語」に節をつけて語った「平家」。その琵琶法師たちが江戸時代になると三味線や箏、胡弓の音楽を手がけ、地歌箏曲家として活躍します。とはいえ自分たちの音楽の原点は「平家」と考え伝承していきますが、時代の流れとともにその伝統も失われてきました。危機的状況のなか立ち上げられた平家伝承プロジェクトに2015年から参加する日吉章吾。今回の公演は彼ならではのプログラム構成となっています。

「平家は楽器を弾くというよりも語りが主となるジャンルですので、内容を伝えることに主眼を置きます。その平家をす



日吉章吾

るようになって、地歌のときもこれまで以上に言葉を伝えるという意識が強くなりました。平家は地歌のものになったもので、声の出し方も土台がしっかりしたように思います。胡弓は音から音に移るときの繊細なテクニクが魅力でもあり、難しさでもあります。胡弓で続いている音を想像しながら、箏や三絃で旋律を奏すると豊かな表現ができるように思います」

平家の語りや地歌の歌、撥弦楽器の琵琶三絃・箏と擦弦楽器の胡弓。一つの公演で一人の演奏家が、異なった持ち味の音楽・楽器を堪能させてくれる注目の公演です。

取材・文／織田麻有佐（邦楽記者）
撮影／堀田力丸

第7回 杵屋長寿郎・柏要二郎

4月調整中 19:00

【出演】 杵屋長寿郎(唄) 柏要二郎(三味線) ほか
【曲目】 蜘蛛拍子舞 ほか

第8回 日吉章吾

6/10(木) 19:00

【出演】 日吉章吾(箏・三絃・胡弓・平家) 高橋翠秋(胡弓)、澤村祐司(三絃) 田嶋謙一(尺八)
【曲目】 「祇園精舎」「夕空」「六段調」「残月」

インタビューの様子は後日紀尾井ホールウェブサイトでも特集する予定です。

しょうが
唱歌と楽譜

邦楽に奥深い魅力を感じると語る俳

優の山口智子さんと、伝統音楽を広く研究する音楽学者、徳丸吉彦さんとの対談シリーズ。第4回は邦楽の伝承の仕方へと話題が展開しました。世界の民族音楽を追いかけ、地球の音楽映像ライブラリー「LISTEN」で世界各国を巡った山口さんと、邦楽の歴史を研究する徳丸さんとの対話から、邦楽ならではの伝承の歴史が浮かび上がります。

徳丸 今回は、邦楽がどのように伝承されてきたかについてお話ししましょう。山口さんも世界各地でいろいろな音楽の伝承方法を見てこられたことでしょうね。
山口 世代から世代へと受け継がれてきた音楽には、楽譜を使わない伝承方法が多々あります。音楽は本来、楽譜で覚えるというよりも、耳で音を聴き、リズムを体で感じながら、覚えていくものだったのではないでしょうか。赤ちゃんが音で言葉を覚えていくのと同じように。

徳丸 本来はそうですね。でも一方で、大切なことを記しておきたいという気持ちも、おわかりになりますでしょうか？

山口 五線譜の音符は西洋の形式ですよね？ 邦楽の場合、どのように伝承されてきたのでしょうか。

徳丸 日本には奈良時代から楽譜がありました。しかも、日本では、1742年という早い時期から印刷楽譜を作っています。

山口 日本の楽譜も歴史は古いですね。印刷の始まりは、確かヨーロッパだと言われていたと思いますが、楽譜においては、実は日本が最初なのですね。

徳丸 そうなんです。ヨーロッパの人々は驚いていますよ。ただ日本では、楽譜を使う文化がある一方で、師匠が歌ったり演奏したりするのを聴いて、それを耳で覚えるという口頭伝承が大きな役割を果たしてきました。

山口 耳で覚える口頭伝承といえば、世界を旅する中で興味深かったのは、インドの「コンナツコル」というものです。楽譜に記すのではなく、耳で聴いたリズムを、音として口で表しながら、記憶し伝承する伝統です。師匠の発する音を、繰り返し耳で聴いて体で覚えていく。私たちも、幼いころに楽譜ではなく耳から覚えた歌は、今でも記憶に刻まれて無意識に歌えますよね。聴いて身体に音を染み込ませ、口を使って音を再現しながら覚える伝承方法は、確かに有効ですね。

徳丸 日本に「口三味線」という言葉がありますね。三味線音楽を習うときに、演奏する音を声で言いますが、これを一般には唱歌と言います。お稽古のとき師匠は「そこはツンじゃなくてテンですよ」というような言い方をします。これは、音高が同じでも、二の糸を押さえるのではなく、三の

糸を開放弦で、という意味です。

山口 「コンナツコル」と同じですね。

徳丸 はい、たくさんのルールがあります。楽譜とともに、日本もこうした唱歌で伝えられてきた部分が多かったんです。

山口 私は楽譜を読むのが苦手なので、唱歌やコンナツコルで体ごと覚えてみたいタイプです。

徳丸 ところが明治に入ってから学校教育で日本の子どもにも五線譜で音楽を教えることになったため、邦楽の世界でも新たな楽譜の作りかた、つまり新しい記譜法がいろいろと作られました。例えば五線譜の要素を使って、三味線のために3本線の楽譜が書かれたり、雅楽、箏曲、三味線音楽などを五線譜に直す試みも生まれました。軍隊隊の人は、長唄の《越後獅子》を早い時期に五線譜にしています。私は、その楽譜をプッチーニが手にしたので、歌劇《蝶々夫人》に引用できたと推察しています。

山口 楽譜も大切な役割を担っているのですね。現代のような録音技術がなかった時代は、やはり書き表して伝えることが重要だったんですね。

徳丸 ええ。楽譜は遠隔地にも、後の時代にも伝承できるのが利点です。このよう



に、ときには邦楽の楽譜にも興味をもっていただくと、演奏への親しみも湧くのではないかと思います。

文／芹澤一美(音楽ライター)

対談の様子はYouTubeでご覧いただけます。



THE
CAPITOL HOTEL
TOKYU

協力：ザ・キャピトルホテル 東急

撮影：堀田力丸

クラシック音楽の
テーマに基づく3話

ピアノデュオを めぐると 3つの話

アップライトピアノでお友達や家族で
楽しむ4手連弾、二人の腕利きのピアニ
ストがステージの上で丁々発止の熱演を
繰り広げる2台ピアノ。今回はそんなピ
アノデュオをめぐるとのお話です。

1 バーニーの4手連弾曲

音楽史上、最初に出版されたピアノ
デュオ曲は、ピアノの発明から70年余り後
の1777年にロンドンで刊行された
チャールズバーニーの連弾曲「4つのソナ
タ集」とされています。バーニーは欧州各
地をめぐる旅行記『音楽見聞録』の著者で
知られていますが、作曲家でもありまし
た。その頃のピアノは5オクターブが一般
的。連弾が大好きだったバーニーは特別に
6オクターブの楽器を作ってもらい弾い
ていました。なぜなら、当時のご婦人の方
スカートは「張り骨」で横に広がっていた
ため、連弾のときに距離ができてしまうか



モーツァルト一家の肖像画 ヨハン・ネポムク・デラ・クローチェ作(1780年ごろ)

らです。バーニーはこんなことも言ってい
ます。「連弾は最初のうちは他人の手に触
れやすいからちよつと恥ずかしい」。窮屈
だけどもコミュニケーションも学べる。それ
もまた連弾のだいご味でしょう。

2 モーツァルトの 「2台ピアノのためのソナタ」 ニ長調K448

袖触れ合うのが恥ずかしいのが連弾で
すが、そんなことを気にせず思い切り自
分の音楽を書いたのがモーツァルトです。
たとえば1780年ごろにクローチェが
描いた一家の肖像画では、モーツァルト
は姉のナンネルとともに連弾をしていて、
弟の右手がお姉さんの左手を越えていま

す。実際にモーツァルトの連弾曲には手
の交差が盛り込まれ、愛好家の慰みを超
えた充実した音楽が鳴り響いています。
1781年にモーツァルトはウィーンで
「2台ピアノのためのソナタ」ニ長調を作
曲しました。これはもう2台のピアノのた
めの協奏曲か交響曲のような大作です。
モーツァルトにこのような曲を書かせた
のは、弟子のヨーゼフ・アウエルンハン
マー嬢。モーツァルトは女性としての彼女
にはとてもひどい感想を述べていますが、
こと音楽については「彼女はうっとりする
ような演奏をする」と絶賛。ソナタは同年
11月にモーツァルトとヨーゼフアによつ
て彼女の邸宅の演奏会で披露されました。

3 ドビュッシーによる ピアノ連弾版 「白鳥の湖」 チャイコフスキーの

話の舞台は変わって百年後の1880
年の夏、フランス西部のアルカッションに
18歳のドビュッシーがいました。チャイコ
フスキーのバトロンとして知られるロシア
の大富豪フォン・メック夫人のお抱えピア
ニストとして、夫人の旅行に同行してい
たのです。旅の一行は夫人の子供たちとド
ビュッシーら3人の音楽家たち。フランス
の他、ローマやナポリをめぐり、旅の途上
でチャイコフスキーの交響曲第4番の連
弾をして夫人と子供たちを楽しませまし

た。同時に《白鳥の湖》第3幕の舞曲を連
弾用に編曲して作曲家に見てもらい、これ
は後にモスクワで出版されています。この
ようにピアノデュオは20世紀初頭にレ
コードが発明されるまで交響曲や管弦楽
曲に親しむための方法でもあったのです。
ブラームスやマーラー等19世紀の作曲家
たちにとっても同様です。作曲家たちは
交響曲を作ると2台ピアノ版を作成
して試演し、オーケストラ版とともに出版
しました。近年、こうした交響曲や管弦楽
曲のデュオ編曲版が注目され、録音した
り、コンサートで演奏するピアニストたち
が出てきました。編曲者も様々、原曲とは
一味違う魅力を味わってみてください。

文／那須田務(音楽評論家)

East meets West

アレクサンダー・ガジェヴ&三浦謙司 ピアノデュオ・リサイタル

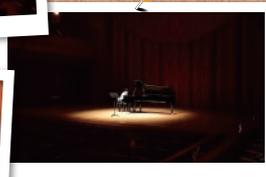
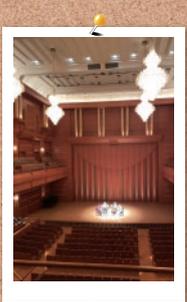
【出演】
アレクサンダー・ガジェヴ(ピアノ)
三浦謙司(ピアノ)

【曲目】
シューマン : 東洋の絵 op.66(連弾)
リムスキー=コルサコフ : 交響組曲《シェエラザード》~
第1楽章《海とシンドバッドの船》
第2楽章《カランデル王子の物語》(連弾)
チャイコフスキー/エコンム : 《くるみ割り人形》組曲(2台ピアノ)
ストラヴィンスキー/ワストル : 組曲《火の鳥》(2台ピアノ)

3/19
水
19:00

弾こう！歌おう！聴いてみよう！ 紀尾井ホールでのオープンハウス

2024年10月17日(木)・18日(金)の2日間にわたって、
紀尾井ホールでの試奏会とホール見学会を開催しました。



今号の 表紙

音響・照明調整室から公演を支える

当ホールは開館以来、舞台スタッフは「明治座舞台」の皆さんが務めています。舞台の設営や、音響・照明の調整などを担っていて、影日向に公演を支えています。表紙の写真は、クラシック用のホールにある音響・照明調整室。本番中はここで操作しています。



紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員（五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略）

《特別協賛会員》住友商事/日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所
 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/大林組/鹿島建設/商船三井/菅原/住友商事/Dr.かすみ永田町クリニック/日本郵船/丸紅/三井住友銀行/三井住友信託銀行/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワンほか匿名2社
 《ひびき会員》オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/みずほ証券/山下設計
 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/荏原冷熱システム/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
 《あおい会員》青木陽介/浅沼雄二/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/上野真志/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/大花謙一/小川 保/小倉 ヒロ・ミハエル/糟谷敏秀/片山國正/片山能輔/加藤善恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/菊池恒雄/木谷 昭/楠野貞夫/栗山信子/河野紗妃/小坂部恵子/斎藤公善/坂詰貴司/坂根和子/佐久間庸行/佐野千紜/佐伯いこ子/潮崎通康/柴田雅美/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/新角卓也/鈴木順一/鈴木 幸/鈴木 亮/高下謹吉/高杉哲夫/田中 進/陳 艶君/田頭亜里/戸田純也/中塚一雄/中西達郎/中野洋子/中村健司/中村昌子/中山昌樹/原田清明/藤村行俊/冬木寛義/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松尾芳樹/松本美恵/真野美千代/丸井正樹/水口美輝/簗輪永世/宮島正次/宮田宜子/宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/ミュージ M/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/矢田部靖子/山内寿実/山口 彰/山口 聡/横手 聡/吉田季光/吉見 亨/渡邊一夫
 ほか匿名44名 計244口

(2024年12月1日現在)

特別支援会員（五十音順・「株式会社」等表記略）

アステック入江/五十鈴/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/丸築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/鴻池運輸/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製鐵/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄工材/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精密加工/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジー/日鉄テックスエンジニアリング/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/日鉄プロセッシング/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日鉄レールウエイクス/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/幕張テクノガーデン/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業/ワコースチール
 日本製鉄
 (2024年12月1日現在)

10.3(木) ピアノ・トリオ・フェスティバル2024-II
 葵トリオ 紀尾井レジデント・シリーズ I 特別回



アンケート
より

© 堀田力丸

葵トリオの演奏には、いつも感嘆しています。超難曲をさらりと弾きこなす力量と、それでいていつまでも瑞々しく青年のようなスタンス。日本にこんなに素晴らしいトリオがいることを、本当に嬉しく思います！浄夜のあとの天衣無縫のモーツァルトは最高of最高でした！

10.24(木) マリオ・ブルネロ&川口成彦 デュオ・リサイタル



アンケート
より

© 武藤章

(メンデルスゾーン「チェロ・ソナタ」に寄せて)深い躍動感のあるチェロの響きと、そこに寄り添うかのような優しいフォルテピアノの響きが、まるで枯れ葉が舞い散る黄金の秋の世界に誘われていくかのように、どんどん引き込まれていきました。

10.29(火) 邦楽 明日への扉
 第5回 清元一太夫(清元節)



© 堀田力丸

舞踊界や歌舞伎舞台を支える清元節の若手演奏家が舞台に顔をそろえた本公演。若々しく瑞々しい語りと三味線の音色に、清元節の魅力がぎゅっと詰まった演奏会でした。ピンと張った空気の中にも華やかさがあり、また一太夫さんの幕前トークも客席を和ませていました。

11.14(木)・16(土) ジェイムズ・エーネス
 ベートーヴェン ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会



アンケート
より

© 武藤章

エーネスさんの再来日をチケット発売よりもずーっと前からとても楽しみにしておりました。正統派のエーネスさんらしい濁りのない素晴らしい音色で、その後の演奏にもグッと引き込まれました。オライオン・ワイスさんのピアノとのハーモニーも素晴らしかったです。

主催公演チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

そのほかチケットぴあ、イープラス(クラシック公演のみ)

CNプレイガイド(電話予約:0570-08-9999/10:00~18:00年中無休)

でもチケットを取り扱っています。

紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527

公演の
最新情報などは
こちら



<https://kioihall.jp>